

放置竹林解消へ 竹炭活用を促す

川

竹を原料にした「竹炭」の性質を学び、放置された竹林の解消を目指す「竹林整備・ポラス竹炭シンポジウム」が29日、渋川市の県憩の森森林学習センターで開かれた。関係者約50人が竹炭の活用法などに関する講義に耳を傾けた。

広島大の中根周歩名誉教授が「竹炭のふしぎな力」と題して講演。竹炭が地球温暖化の抑制や植物の成長促進に役立つ資源であることを述べ、積極的な利用を促した。

県内外の識者5人によるパネルディスカッションも実施し写真。

県木炭協会の星野本三会長や大会を主催するNPO法人フォレストぐんま21の菊川熙英理事長らが炭の新しい用途や竹林整備の現状などを紹介し、参加者と質疑を交わした。

